

第1弾は、海を越えてガーナからお迎えした国分敏子さん



■今回はガーナで活動されている国分さんをお迎えしての対談の第3回目となります。前回は人間の脳は、考える脳を主体としたSystem2と、感じる脳を主体としたSystem1があり、学童時代にSystem1の部分が、感じる力をどれくらい育てたかということがとても大切だというお話がありました。それを受けて今回は日本の地域と中小企業の問題からスタートです。

日本の地域、中小企業の問題

櫻田：経済産業省に行くと、中小企業を儲けさせてくださいって頼まれるんです。儲けさせるのは簡単だから、引き受けますよ。売れるようにすればいい。でもね、しばらくすると、(引き受けた)会社の社長さんから連絡があった。「櫻田さん、大変なんです」「儲かってないの?」「いや、儲かっています」「じゃあ、いいですよ。何が大変なの?」って聞いたら、会社が儲かったから忙しくなって、社員が辞めはじめて、このままでは仕事やりきれないので新しい人を募集しようと思ってる人を見たんですけど、誰も応募が無いから、どうしたらいいですか?って話なんです。自治体の人から「若い人が田舎から出て行ってしまってます」という悩みを聞くから「何故、出て行ってしまおう?仕事無いの?」と聞くと、「仕事はあるんですよ」と言われては、それでいいから、地域にも会社や仕事があることを知らないから、他にだて行ってしまおうんですよ、って。知らないし、関わりが無いから、関わりなくなる。これはね、一企業の問題でなく、日本全体の中小企業が抱えている問題。

僕は地方で子供達に取材する技術を教えています。地域のおじいちゃんや企業を取材して、ポスターや映像を作らせています。ただ取材させるだけではなく、脳をしっかり使うために、映画の技術を使った方法を教えています。「観る力」「編集する力」「伝える力」の3つを重点的に教えます。そうすると、自分の地域に対する愛情が自然に芽生える。子供達の失敗やコンプライアンスは、大学とかに入って勉強したらいい。コンプライアンスって倫理だから、それが初めに来たら、何も動けなくなってしまう。そんな事はみんな、微調整しながら生きてきたんですよ。某〇〇省でね、補助金出すからこの書類を見てくれって言われたんだけど、これは内緒ね(笑)ざっと見たら、面白くもおかしくないものなの。それを言ったら「そうなんです」って言われて、つまり失敗しないようなものを選ぶ。企業だって、大人だって失敗しなければ新しいことは起きないんだから。僕は今まで全国で1万人以上の中小企業の社長たちにインタビューをしてきたんです。その中で親しくなった人がいてね「櫻田さん、凄いい物が出来たから見に来て」って言われて行きました。で、行ってみたい、いろいろ説明受けて凄いい物はなかったの。そこで「これって何に使おうですか?」って聞いたら、「それを櫻田さんに考えてもらおうかと思って」と。「ちよつと待つて、何のために作ったの?」「いや、補助金が取れたから」。それで思ったのが、日本人は一部のを除いて、自分でオリジナルを作らない方がいい。100のモノを作れと頼まれたら、最低でも24から34くらいまでのモノを作ろうと目指す。できれば100を作りたいという人たちがたくさんいる。だから逆にイノベーションを起こせるような人を育てるには時間がかかる。まず失敗を恐れているのだから。失敗しないようにやってきたから、失敗しない技術はとっても高くなってきた。でもイノベーションは失敗しないと起きないでしょ。これが日本が苦しんでいる今の要因の一つだと思います。

美意識と「道」のつくもの

国分：失敗をすることを恐れて育った子供は、ある日大きな挫折に合った時、それに対応する力が備わらないんじゃないかと思うんです。櫻田：そう、それが美意識。結局、ズルをしようとしてしまう。失敗してはいけないと言われると、分けのわからないことはできないということだから、知っていて、必ず成功することしかできない人になる。だから、System2をどう育てようか、論理的思考だから、正解が出るような考え方を教えるそれは大事なんです。戦後の日本では、だて論理的思考が無いから、戦争を始めてしまったわけですから。僕はSystem1の美意識を育てていけば、あんなに酷いことにはならないと思うんです。あんなときは、時代的にそういう美意識だったのかもしれないだけ。

型があるのは、失敗させるためにある。失敗させながら型にはまると、「ああ、こういうことか」って理解ができる。それまでは失敗の連続なんだけど、そのために型がある。これって日本文化のすごいところ。国分さんの場合は、「そろばん道」というか「国分道」みたいなものですね。国分：いいですね!国分道にしたいです!櫻田：国分道もSystem1教育も、非言語教育だからマニュアルや教科書ににくいわけですよ。じゃあどうするかというと、僕の場合、できるだけ言語化する。後はね、映画の技術を使えばいいと思う。映画というのは、実は情報を正しく与えているわけじゃない。System1の能力である、共感する力とか連想する力とか自然に備わっているものがあるのだから、失敗させるためにある。失敗させながら型にはまると、「ああ、こういうことか」って理解ができる。それまでは失敗の連続なんだけど、そのために型がある。これって日本文化のすごいところ。国分さんの場合は、「そろばん道」というか「国分道」みたいなものですね。国分：いいですね!国分道にしたいです!櫻田：国分道もSystem1教育も、非言語教育だからマニュアルや教科書ににくいわけですよ。じゃあどうするかというと、僕の場合、できるだけ言語化する。後はね、映画の技術を使えばいいと思う。映画というのは、実は情報を正しく与えているわけじゃない。System1の能力である、共感する力とか連想する力とか自然に備わっているものがあるのだから、失敗させるためにある。失敗させながら型にはまると、「ああ、こういうことか」って理解ができる。それまでは失敗の連続なんだけど、そのために型がある。これって日本文化のすごいところ。国分さんの場合は、「そろばん道」というか「国分道」みたいなものですね。



型があるのは、失敗させるためにある。失敗させながら型にはまると、「ああ、こういうことか」って理解ができる。それまでは失敗の連続なんだけど、そのために型がある。これって日本文化のすごいところ。国分さんの場合は、「そろばん道」というか「国分道」みたいなものですね。国分：いいですね!国分道にしたいです!櫻田：国分道もSystem1教育も、非言語教育だからマニュアルや教科書ににくいわけですよ。じゃあどうするかというと、僕の場合、できるだけ言語化する。後はね、映画の技術を使えばいいと思う。映画というのは、実は情報を正しく与えているわけじゃない。System1の能力である、共感する力とか連想する力とか自然に備わっているものがあるのだから、失敗させるためにある。失敗させながら型にはまると、「ああ、こういうことか」って理解ができる。それまでは失敗の連続なんだけど、そのために型がある。これって日本文化のすごいところ。国分さんの場合は、「そろばん道」というか「国分道」みたいなものですね。



の活性化させるために、映画の技術を使ってきてるんです。僕はこれを研究して、絶対に使えると思った。シナリオを書いて、こういうふうに見える人を見て、これ大事だなと感じると思う。System1の方で「大事だな」と思い込んでみると、勝手にその方向に動いていく。System2は、System1の方向性に沿って働くから、今までお受験でしょ!って思っていた感覚が、国分道かも!という感覚にスライドすると、勉強しなさい、勉強しなさいと言わなくても親がもうやめとけば、というくらい自分でその道に進んでいくようになる。これは、論理的に考える方向がSystem1に支えられているという事実を示しています。

事実と真実

櫻田：国分さんのような方の話が何故大事かと言っていると、無茶苦茶実践してる人だから。実践している人以外は事実ではない。僕ね、事実と真実というのを明確に分けてるんですよ。事実というのは前提にして、政策なら政策をしないと、真実はその人の物語で、感情が語り始めるんです。これが「真実」。真実から入るのは大事だけど、真実は人の数ほどあるし、人の真実を否定するわけにはいかなから、ここで喧嘩が起るわけなんです。だから、事実から始めて、誰もが納得する事実を示す技術があればいい。人を変えるのは論理ではない。コンプライアンスは論理的に「問題ないでしょ、問題ないですよね?」って言うだけ。「それが何を生むんですか?」って聞いたら、「それを先生に考えてもらおうか」と思っています。「わかるかよ、そんなもの」ってなりますよ。

櫻田：コンプライアンスって英語の意味と、日本語は少し違うと思うよ。国分：わかります、英語の本当の意味とちよつと違いますね。女子力の正体 国分：最近、「女子力」という言葉が流行ってるじゃないですか?それを英語で訳すと、「ガールズパワー」じゃないですか?帰国して、電車の中吊り広告で、「男子こそその仕事」みたいなのを見たときに、なんじゃこれ

は?と思っただけです。日本人の女子力=男子に求められる力なのかなって。女子力アップの化粧、女子力アップの料理。日本の「女子力」ってモデルのための対象が男子でしょ?だけど、ガーナに行くと思ったのは、女子力はガールズパワー、ウーマンズパワー、生きるための力。人に媚びることでないんだって。私がお客さんで話したとき、どうしてもみんな、媚びてるんですよ。男子に求められる力、男子に喜ばれる力って、どう考えても間違ってますよ。

櫻田：そういうことを作っているのが、我々の持っている技術を悪用してるんです。男子のためにというなら、その男子も作られたものなの。あいつ捕まえて玉の輿に乗ってやる!っていうのであれば、物語としてはわかるけど、女子力には、「あいつ」がないの。あるときから、ファンタジーとリアリティの境がにじんできたんです。そういう話を徹底的に伝えて欲しい。それが、美女と美人の違いなんです。僕からしてみたら、日本の女子は男性を誤解していると思うんですよ。10代、20代はそういうところもあるけれど、媚びられてまつ毛長くしてみました!って言われてもね。国分：一時帰国中の日本を見るのがすごく楽しいです。電車の広告とか見ちゃうの。すね毛の無い男子とかもいるじゃないですか?髭もないし、すね毛もないし、なんじゃ!って思いついてね。話それちゃいましたね(笑)櫻田：(写真)これ見てください。僕ね、徳島商業高校にSystem1教育をしっかりと教えてるんです。この子たちが即戦力になるよ

らに、偏差値も上がる、学力があがるようにね。教えて7、8年になるから卒業生が来てね、「一緒に写真撮りましょう!」って撮影したら、こうなったの(加工された写真)。これ見た瞬間に俺を巻き込むよ!って(笑)つまりこれが、彼女達が考える女子力。男はそんな所に魅力を感じないの。はっきりいって一つ。生命力なの。僕を呼ぶような学校は、偏差値を上げたい所が多いから、普通科ではない所が多い。AIはSystem2の強化するもの、System1育てるものではない。System1を鍛えないと思いきみだけで行動してしまうけど、横にずらせるのが映画の技術です。それができると、人生が楽になる。「私ってためなのかしら?」というのは感じる脳だから、考える脳でいくら「大丈夫、大丈夫」と言われても動かないんですよ。じゃあ、どうやらつらつらさせるのか。映画の技術でいくと、演技をさせる。君はこの役ねって言われたら、演技しないといけない。役をやっていくと感覚が変わっていくというようにことを教えています。だけど、コンプライアンスから始めて、こういうものが女、こういうものが男というイメージが、あってもいいかもしれないけど、生きるためには役に立たない。そういうことを何とかしたい。男子が女子のどこに惹かれるかっていうと、立ち居振る舞い。姿勢が良い子はモテる。姿勢っていうのは大事で、良い姿勢は全力発揮できる身体=生命力にあふれた状態であるということ、自己肯定感とリンクしています。



■次回は、生命力にあふれた状態に大切な姿勢。女子力を高める「姿勢」を身につけるには...